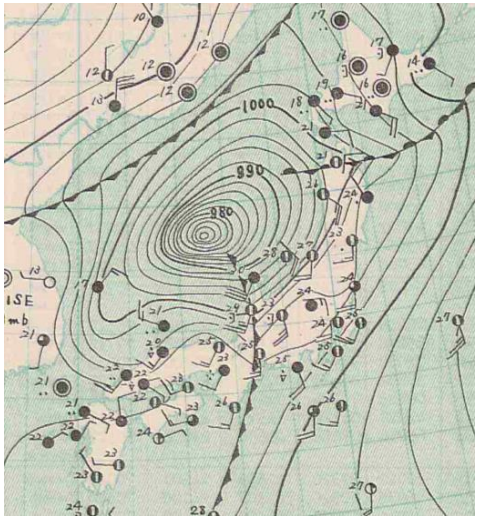
（新潟大火）昭和30（1955）年10月1日、日本海を北東進した台風第22号に伴う強風

日本海を北東へ進んだ台風に伴う強風と新潟市の大火

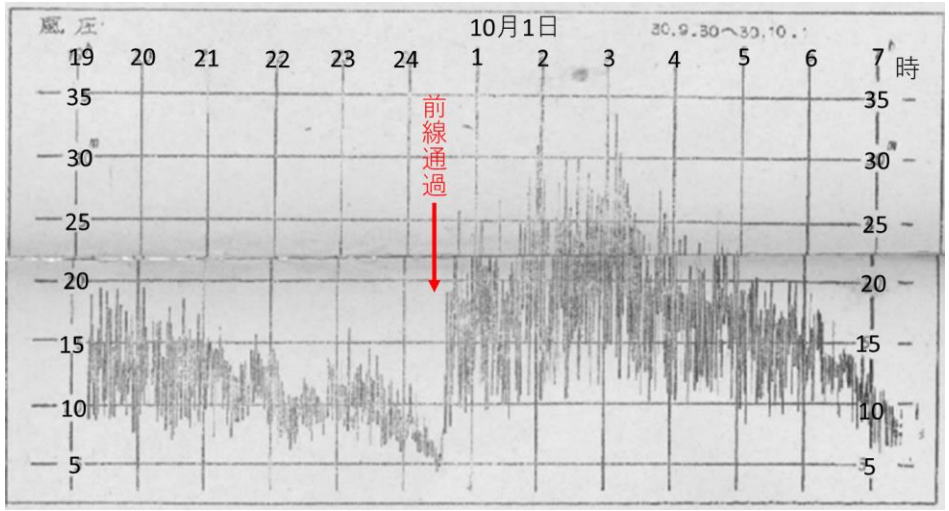
【概要】

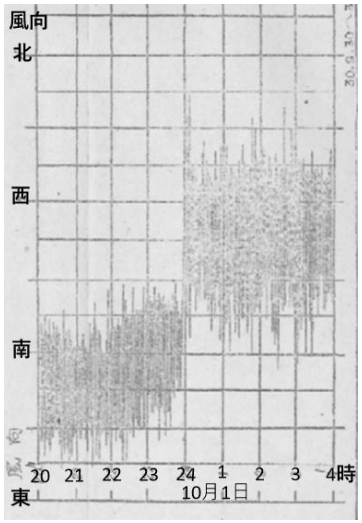
昭和30（1955）年9月30日から10月1日にかけて、中心気圧970hPaの台風第22号が速度を速めながら日本海を北東へ進んだ。新潟県では、大雨にはならなかったが、各地で強い風が吹いた。新潟では、30日は南東のやや強い風が吹いていたが、寒冷前線が通過した1日未明からは西の風に変わるとともに風が非常に強くなり、1日3時20分には最大風速21.7メートル（西南西）、1日3時5分には最大瞬間風速33.6メートル（西南西）を観測した。台風に伴う被害としては、沿岸部での送電線への塩害のほか、新潟市での強風による火災があげられる。10月1日2時50分頃、新潟市医学町1番地の新潟県庁第三分館から出火。風下の東南東方向に燃え広がり、市中心部の百貨店や銀行などが延焼し、8時間後の1日19時頃に概ね鎮火した。焼失戸数は972戸、焼失面積は7万8千坪に及ぶ。

（被害概要は、「1995（昭和30）年新潟大火と復興計画」（2016,伊東孝祐ほか）、「新潟市における災害の歴史」（新潟市郷土資料館調査年報第21集）による）



地上天気図　昭和30年9月30日21時





ダインス式自記風圧計による瞬間風速と風向の記録（新潟地方気象台）